

北辰衆星

— 真のリーダー無き世相に思う —



< 念ずれば花ひらく >

< 坂村 真民先生 プロフィール >

1909年(明治42年)1月6日、熊本県に生まれる。
8歳の時、父親の急逝によりどん底の生活に落ちる。5人兄弟の長男として母親を助け、幾多の困難と立ち向かう。
昭和6年、神宮皇学館(現皇学館大学)を卒業。25歳の時、朝鮮にて教職につき、36歳、全州師範学校勤務中に終戦を迎える。昭和21年から愛媛県で高校の国語教師を勤め65歳で退職、以後詩作に専念する。四国移住後、一遍上人の信仰に随順して仏教精神を基とした詩の創作に転じる。詩の愛好者によって建てられる真民詩碑は、700碑を越え日本全国から海外にも及んでいます。人々に「生きるための言葉」をたくさん残され、2006年(平成18年)に97歳で永眠されました。

< 徳真会グループとのかかわり >

1991年(平成3年)の徳真会グループ創業10周年を記念し、旧新津市(現新潟市)秋葉山に全国で171番目となる「念ずれば花ひらく」の石碑を建立、寄贈。当時82歳の坂村真民先生に遠路四国よりお越しいただき、石碑に入魂式を執り行いました。
その後も当グループ代表 松村博史と親交が深く、徳真会グループの各医院には特別に、真民先生の数々の書を飾らせていただいております。
代表 松村と坂村真民先生の交流は、晩年まで続いていました。そして先生没後も、坂村真民記念館の館長を務められる三女の真美子さん御夫妻との交流は続いています。

世界中で異常な国家間覇権闘争が続いています。

それぞれの独裁者には、彼ら独自の価値観、歴史観に基づいた異常な思い込みと強烈な権力欲、支配欲が有り、自分の利害の為には他国、場合によっては自国民の命や財産を奪う事も問題としない異常な共通性が有ります。

翻って大きな視点で考えると、宇宙には数千億もの銀河が有り、そして銀河には太陽の様に自ら光を発する恒星が数千億以上も有り、それぞれの恒星の周りには地球の様な惑星が回っていて、更にその惑星の周りを月の様な衛星が回っている訳で、夜星を見上げて光る星は太陽の様な恒星で、その恒星の周りには数え切れない数の惑星や衛星が存在しているのが宇宙なのです。

そして、それぞれの星にも寿命が有り、星として生まれそして必ず終ってゆく訳です。

それは、人間の時間軸からすれば、数千億年という気の遠くなる様な長い時間ではありますが、逆に宇宙の時間軸からすると人間をはじめとする地球の生物の寿命は、まさにまばたきする間にもならない程の時間でしかありません。

地球も約38億年後には、太陽の膨張の中にのみ込まれて消滅し、それ以前に太陽の熱で大気が蒸発し、生物が住めない星となってゆくのも予測されています。

我々が住む今の地球は、生物が生存する一番快適な瞬間にあり、この奇跡の星である地球で共に生きる我々は、互いに共存する道を考えるのが、指導者に必要な共通の根本的考えだと思います。

「北辰衆星」という言葉が有ります。

優れた組織や国家には優れたリーダーがいて、そのリーダーが指し示す正しい方向に向かって周りが動いてゆくの理想の姿で、その様は、あたかも地球から見た地軸の延長上に有る北極星の周りを、星が規則的に周っている様であるという意味の言葉です。

今日、世界中で北辰に相当する人物が不在の中で、社会が迷走している時代になってしまっています。

我々は、小は家庭、職場から、そして大は社会、国家に至るまで、北辰となるリーダーの育成を皆が自覚して急がねばならないと強く思う最近です。

徳真会グループ
代表 松村博史